

## V 校内研究

### 1. 研究主題

主体的に考え表現し、自己を見つめ高める生徒の育成

### 2. 研究主題及び副題の設定理由

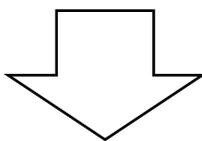
#### (1) 本校の研究の歩み

#### 〈 取組 〉

1. 学びのイメージマップの活用  
校内掲示・目標を立て振り返りを行う
2. 布水式授業スタイル  
学びを広げ、深めるための手立ての工夫
3. 生徒が自分の言葉でまとめを書く
4. 1分間ライティングの実施
5. 学びを広げ、深めるための手立ての評価の改善  
「学びを楽しむことができた」を項目に追加
6. 教科部会を中心とした授業改善  
実践レポートの作成、相互授業参観など
7. 一人一台端末の活用  
授業の他、家庭学習としてミライシードやまなびポケットを行う

#### 〈 成果・課題 〉

- ・生徒と教師が良い学びのイメージを共有し、生徒は文章記述が上達した。
- ・生徒の主体的に課題解決に向かう姿勢は見られたが、自分の思考を広げ深めるために、自己の学びを見つめ高めるまでには至っていない。
- ・自分の言葉でまとめを書けない生徒がおり、よりきめ細かな個に応じた指導・支援が必要。
- ・生徒の「学びを楽しむことができた」の項目の肯定的な回答が9割以上と良好だった。
- ・他教科の良い事例も知ることができ、授業改善の良い機会となった。
- ・授業、朝学習や家庭学習での端末使用の機会は増えたがまだまだ活用の余地はあり、効果的な活用方法にも課題が残る。



今年度は、成果を上げている学びのイメージマップの取組と生徒が自分の言葉でまとめを書く取組について継続して行っていきたい。ただし、教師がいかに生徒の学びを広げ、深め、高めるかを教材研究の際にイメージを持つとともに、課題が見られた計画的な家庭学習と生徒の能力や興味関心に応じた個別最適な学びを重視する。これらによって、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、主体的に考え表現し、より自分を高めようとする生徒の育成を図っていきたい。さらに、昨年度の ICT を活用した効果的な授業実践を土台に、ICT の効果的な活用方法について更なるアイデアを教員間で出し合い、交流を図っていきたい。

(2) 目指す授業像

生徒が学びの広がりや深まりを実感し、自己の変容を自覚できる授業

(3) 教師の重点的な取組

① 布水式授業スタイル

	生徒の学習活動	過程	教師の指導、支援	
1	本時の課題の提示	つかむ	新たな疑問や興味を生徒にもたせる	
2	課題解決の場面	考える 深める	学びを広げ、深めるための手立てを工夫する。 生徒がつながりに気付くことで主体的に課題解決に向かわせる。	手立ての工夫
3	本時のまとめ (単元・本時の振り返り)	まとめる	本時の課題に対するまとめを自分の言葉で書かせる。 自らの学びの広がりや深まりを実感させる。	評価

授業後半  
の充実

※課題、深める、まとめるのプレートを活用する

② 学びのイメージマップ(生徒が学びを広げた姿のイメージ)の活用

- ・ 教師が週案づくりをしながら生徒の学びを広げ、深め、高めるイメージを持つ。
- ・ より良い学習のイメージを生徒・教師間で共有し、学びの広がり、深まりを意識しながら授業を行う。

③ 授業のまとめを生徒自身の言葉で書く取組

- ・ 課題解決の場面で生徒が主体的に学びを広げ深める活動を行うことで、生徒自身が自らの考えの変容や新たな気付きを書けるよう促す。
- ・ まとめを書けない生徒を見逃さず、個に応じた指導を充実して言葉に出せるよう支援し、自己肯定感を育てると共に学力の底上げを図る。また、自分の言葉でまとめを書き終えた生徒には、質的にレベルの高いまとめを書くことにチャレンジさせるなど自己を高めていける手立てを考え、学ぶ意義や喜びを見出せるようにする。
- ・ まとめを相互に見せ合い再構築することによりまとめの質の向上を図る。

④ よりよい学習習慣の達成

- ・ 生徒の自ら目標を立て、学習を調整し、効果的な学習を行うことができる力を育むために、自分に適した家庭学習方法に気づかせ、計画的な学習ができるようにする。

⑤ ICT の効果的な活用

- ・ ICT コーディネーターが ICT 支援員と連携を取りながら、授業での ICT の効果的な活用場面や方法を苦手な教師やさらにレベルアップを図りたい教師が個別に支援を受けられるようにし、全ての教師が活用できるようにする。
- ・ 課題の見られた個別最適な学びが改善され、協働的な学びがさらに充実できるよう、ICT を活用した効果的な授業実践をもとに授業を行い、教科部会や校内全体研究会で交流していく。